

# 令和 5 年度 学校自己評価システムシート (武南中学校)

目指す学校像	豊かな人間性の確立を目指し、学力の向上、健康な心身の育成を図り、志を高く持ち、21世紀の社会に貢献できる自主・自立・自学・協同の精神に満ちた生徒を育成する。
--------	--

重点目標	1 授業の充実・指導改善 2 開かれた学校づくりの推進 3 高い学力と知性と教養を身に付けるための学習指導の徹底 4 自己実現を図るための指導の徹底 5 豊かな人間性を育む教育の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者 4名
--------------

学校自己評価							
年度目標				令和5年度評価(2月27日現在)			
番号	評価項目	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	授業の充実・指導改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究を一層進め、授業改善を図る必要がある。</li> <li>基礎・基本を身に付けていないため、学び直しが必要な生徒がいる。</li> <li>主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進する必要がある。</li> <li>ICTを活用した授業を展開することで、生徒の思考力、判断力、表現力の向上を図る必要がある。</li> <li>ALTを配置したことから英語の4技能を統合した授業の工夫・改善を推進する。</li> <li>他校の情報を得る機会を作る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究週間を活用し、教科によっては複数配置がなされたことから、相互に授業参観を行い、意見交換を行う。</li> <li>管理職全員による授業観察を実施し、教職員にフィードバックする。</li> <li>協調学習の取り組みなど、授業方法の研究を行い、授業改善を図る。</li> <li>ICTを活用して生徒同士が情報共有をして学習に取り組むシステムを活用する。</li> <li>ALTを活用し異文化交流プログラム「BUNAN INNOVATION」を円滑に実施する。</li> <li>他校を訪問し優れた授業や先進的な授業法を学び自らの授業実践に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究週間による相互の授業観察の回数と教員間の意見交換の内容等。</li> <li>管理職による授業観察の回数とフィードバックの内容等。</li> <li>主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の実施頻度と学力の伸び。</li> <li>ICTを活用した授業の頻度。</li> <li>「BUNAN INNOVATION」の実施により、英語力、コミュニケーション力の向上が図れたか。ALTの活用方法。</li> <li>他校への視察の回数と研修会等への参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究週間における授業観察を相互に50回(10名)行い、意見交換を行うことで授業改善を図った。</li> <li>管理職(校長・教頭)による授業観察を全員行い、指導助言を行い、授業力の向上を図った。</li> <li>新しい異文化理解プログラム「BUNAN INNOVATION」の実施により、(2級6名、準2級11名)</li> <li>県立総合教育センターに、社会科、理科、英語科4名参加。埼玉大学付属中学校研究授業に8名参加。</li> <li>桐蔭学園、城北埼玉中学を訪問し、国際理解や授業改善等に役立った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は授業観察の後の振り返りが授業改善に結び付けられるように取り組む必要がある。</li> <li>管理職による授業観察を継続して計画的に実施していくことが必要。</li> <li>外部の指導者を招いての研修を実施することが必要である。(今年度は英語科で模擬授業等を実施。)</li> <li>新しい異文化理解プログラムである「BUNAN INNOVATION」実施による成果を引き続き検証する必要がある。</li> <li>引き続き、埼玉県立教育センターの研修に参加したり他校訪問をしたりして教員の力量の向上に努めたい。</li> </ul>
2	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開、学校説明会、入試体験会を通して教育活動を実施している。</li> <li>近隣小学校や中学校との交流や接点が少ない。</li> <li>ボランティアや地域貢献活動等に参加する機会を積極的に取り入れる必要がある。</li> <li>学園だよりを発行することで武南中学校の魅力を広く周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開や学校説明会、入試体験会を保護者や地域に積極的に周知する。</li> <li>近隣の中学校との生徒会の交流や小学校へのサポート等を実施する。</li> <li>地域の自治会や蕨市のコミュニティセンターと連携し、積極的に生徒を派遣する。</li> <li>クリーン作戦やボランティアの実施する。</li> <li>HPや学園だよりの発行の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開や学校説明会、入試体験会を保護者や地域に周知できたか、その回数等。</li> <li>近隣の中学校との生徒会の交流や小学校へのサポート等が実施できたか。</li> <li>地域の自治会や蕨市コミュニティセンター等と連携し、生徒を派遣できたか。</li> <li>クリーン作戦やボランティアの実施回数。</li> <li>HPや学園だよりの充実が図れたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会5回、入試体験会2回で、計882名が来校した。</li> <li>保護者会4回、授業公開2回を実施し、計213名が来校した。</li> <li>保護司の会の学校訪問で7名が来校し、授業見学と意見交換を行った。</li> <li>小中学校との連携や交流が未実施。</li> <li>蕨市コミュニティセンターに作品展示により協力した。</li> <li>HPの更新回数48回、武南学園だより11回発行(2月現在)。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校や地域のコミュニティセンターと連携した取り組みを企画して実施する必要がある。</li> <li>受験生のみならず、地元の小学生に公開したり、交流したりすることを検討する。</li> <li>クリーン作成やボランティアに生徒を参加させるよう働きかける。</li> <li>HPだけでなくSNSを通じた情報発信を研究・検討する。</li> </ul>
3	高い学力と知性と教養を身に付けるための学習指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での学習時間を確保できない生徒が多く学力の伸びが緩やかである。</li> <li>基礎・基本を身に付けさせるための指導を徹底する必要がある。</li> <li>予習、授業、復習のサイクルが定着できていない生徒への対応が必要である。</li> <li>学力差がある生徒への対応が必要である。</li> <li>埼玉大学とのSTEM教育に係る共同研究を実施する。</li> <li>追試や再指導の受講者を減少させるための指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習を推奨するとともに放課後のサポート体制を充実させる。</li> <li>試験問題の工夫改善を行うとともに、授業時間内に小テストを繰り返し実施することで基礎学力の定着を図る。</li> <li>習熟度別授業や個別指導を行い、個々の能力・適性に応じた学力の向上を図る。</li> <li>STEM教育による問題解決型学習、教科横断的な学びを各教科の授業に取り入れる。</li> <li>追試や再指導を減らすための事前指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習や放課後のサポート体制が作れたか。学校で勉強する生徒の人数等。</li> <li>思考力や表現力を育むための試験問題の工夫改善が行われたか。</li> <li>授業時間内に小テストを繰り返し実施することで基礎学力の定着が図れたか。</li> <li>習熟度別授業や個別指導により、どの程度成績が伸びたか。</li> <li>STEM教育により、各教科・領域の知識や考え方を身に付けられたか。また、その学習効果はどうか。</li> <li>追試や再指導の人数を減らせたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝講習4講座、放課後講習10講座等を実施し、学力の向上を図った。</li> <li>観点別評価を生かし、思考力・判断力・表現力を重視した試験問題を取り入れた。</li> <li>小テストを国語、数学、英語等で実施し、基礎学力の定着を図った。</li> <li>1月に「国語と英語」「数学と理科」でSTEM型の教科横断的な問題解決型の研究授業に取り組んだ。</li> <li>再指導の人数延べ792名、再調査合格者延べ358名であり、(通過率45.2%で合格者が増加した)。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、朝学習や放課後の指導を組織的、計画的に実施する。</li> <li>引き続き、小テストや単元テストを実施し、知識の定着を図り、基礎学力を伸ばすよう努める。</li> <li>上位層に対して、講習等を実施することで高いレベルでの学力の維持を図る。</li> <li>STEM型の教科横断的な問題解決学習の研究を一層進める。</li> <li>再指導と再調査の在り方や進め方を再検討する。成績不振者に対して、試験前指導の充実を図る。</li> </ul>
4	自己実現を図るための指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>一貫校として6年間を見通した進路指導・キャリア教育の充実を図る必要がある。</li> <li>理科、社会科、美術等の各種フィールドワークを通して、自分の興味や関心が広がられている。</li> <li>悩みを抱える生徒や不登校生徒等への支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間を活用し、中学校から高校までの学びのプロセスを記述し振り返る。</li> <li>フィールドワークにおいて探究的な学習を一層進める。</li> <li>面談を通して一人一人の生徒理解に努める。</li> <li>スクールカウンセラーと連携しながら、悩みや不安を抱えた生徒及びその保護者に寄り添った支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のキャリア意識や職業観がどの程度高まったか。</li> <li>フィールドワークの実施により、生徒の思考力や判断力・表現力が高まったか。</li> <li>生徒面談は年間どの程度実施できたか。</li> <li>スクールカウンセラーや教育相談員の相談件数と不登校生徒の減少数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間を通して、生徒のキャリア意識の向上が図れた。</li> <li>理科、美術、社会科の各種フィールドワークにより、生徒の主体的に学ぶ力や意欲、探究心を高められた。</li> <li>教育相談室利用保護者6名、生徒6名、不登校生徒7名(昨年度3名)</li> <li>カウンセラーや相談員と連携することで対応が円滑にできている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の6年間を見据えたキャリアマップを作成する。</li> <li>キャリア意識の向上を図るため、フィールドワークとして、大学見学会や企業訪問等の実施を検討する。</li> <li>生徒の面談週間を設け、定期的な生徒面談を実施する。</li> <li>引き続き、スクールカウンセラーや教育相談員との定期的な情報交換を行い共通理解を図り指導に当たる。</li> </ul>
5	豊かな人間性を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の抱える課題や人間関係を把握して予防的な生徒指導に努めている。</li> <li>生徒の規範意識の醸成を図る必要がある。</li> <li>生徒一人一人の個に応じた指導が必要である。</li> <li>明るくさわやかなあいさつ、時間を守ること、心を込めた清掃など、基本的な生活習慣はおおむね整っている。</li> <li>部活動が停滞している。生徒会活動、委員会活動も充実させる必要がある。</li> <li>アジア研修旅行が実施できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員全体で生徒の観察に努め、深刻な問題に発展しないよう初期段階で諸課題を解決する。</li> <li>部活動を充実させることで、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上につなげる。</li> <li>文化祭、体育祭、アジア研修旅行など学校行事の充実を図り、中学校への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の問題行動件数が減少したか。</li> <li>学校行事により望ましい人間関係の構築、自主的・実践的な態度が身に付いたか。</li> <li>部活動の充実により、責任感や連帯感、学習意欲の向上が図れたか。</li> <li>様々な学校行事の実施により、中学校への所属感や連帯感を深められたか。また、自主的、実践的な態度を育てられたか。</li> <li>アジア研修の実施により国際性や多様性の尊重、共感力の育成が図れたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導では、不適切な行動や対人関係のトラブル、ネット関係等の指導が必要なケースがあった。</li> <li>部活動、9部活に85名参加(加入率61.6%)生徒は意欲的に参加している。</li> <li>文化祭、体育祭、競技大会等の学校行事にクラスで協力して取り組むことができた。</li> <li>アジア研修旅行では、文化祭での事前学習の発表等を通して、充実した研修となった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が多様化する中で、新たな生徒指導規程を策定し、生徒の指導に当たることが必要である。</li> <li>どのような組織でも人間関係のトラブルは必ずある。生徒の小さなサインを見落とさないよう、注意をお願いしたい。</li> <li>部活動の活性化を図るため、部活動の魅力を発信し、加入率を高める。</li> <li>文化祭において合唱等の学級対抗の催し物を検討し帰属意識を高める。</li> <li>アジア研修旅行の一層の充実を図るために、今年度の成果と課題をもとに見直しを進める。</li> </ul>

学校関係者評価
実施日 令和6年2月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の充実、指導改善のために様々な取組をされていて素晴らしい。</li> <li>授業のねらいを明確にして、生徒が理解したうえで授業を進めていただきたい。</li> <li>プリント学習が増え、板書が減り、自分でノートをまとめたりする機会が減っているように思うので、書く機会を増やしてほしい。</li> <li>職員の方々、生徒たちのためにも、自校研修の内容充実をお願いしたい。</li> <li>外部の学校を訪問し、取り入れた方がよいと思うことは積極的に取り入れてほしい。</li> <li>外部の学校からも、訪問していただくことで先生方のスキルアップ、主体性を育ててほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>小中連携や交流をできたらと思うが、ぜひ、子どもたちで実施できると良い。</li> <li>父母の会として、近隣の方や小学校との交流ができるイベントがあれば、積極的に参加したい。</li> <li>クリーン作戦やボランティアに積極的に参加、取り組む生徒を育ててほしい。</li> <li>地域の皆様の協力、支えがあって武南学園の学園生活が送れることを周知してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>STEM教育による問題解決型学習、教科横断的な学び等、たくましく生きていくうえで、大切なことに力を入れた教育内容になっていると思う。</li> <li>記述式の問題を増やして、考えさせる授業を実施しているとのことであるが、教科横断型授業を今後も楽しみに注視していきたい。</li> <li>朝学習に取り組むことで、生活習慣が朝型になりつつあるのは、保護者としてうれしく思っている。</li> <li>引き続き、小テストを行うことで基礎学力の定着を図ってほしい。</li> <li>再指導になる人数が多いように思うので、調査後の指導と調査前に再調査とならないよう、引き続き試験前指導をお願いしたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>一貫校の強みの一つとして、進路指導、キャリア教育の充実があると思うので、ぜひ、積極的に取り組んでほしい。フィールドワークの実施は、主体的に学ぶ力を伸ばすものと思われる。</li> <li>大学見学や企業訪問など、とても良いと思う。具体的に進路を考えていない生徒に、将来を考えさせるきっかけを与えられると思う。</li> <li>不登校の生徒一人ひとり、指導方法が異なると思う。生徒の抱える問題点をスクールカウンセラーと共有し、生徒の性格に応じた指導により、不登校の生徒が激減することを期待している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな考えの生徒がいるので、少しの衝突があることは当たり前だと思うが、解決策を導けるように手助けをお願いしたい。</li> <li>どのような組織でも人間関係のトラブルは必ずある。生徒の小さなサインを見落とさないよう、注意をお願いしたい。</li> <li>いじめはなかなかなくならないが、多くの大人の目で、生徒たちの変化を見守ってほしい。</li> <li>部活動、生徒会活動、委員会活動も充実してほしい。</li> <li>アジア研修は、今後も継続してほしい。とても有意義な6日間を過ごせた。アジア研修は素晴らしい。</li> </ul>

